

2019年3月期

《第2四半期》

決算説明資料

～運輸成績及び事業計画トピックス～



2018年11月7日

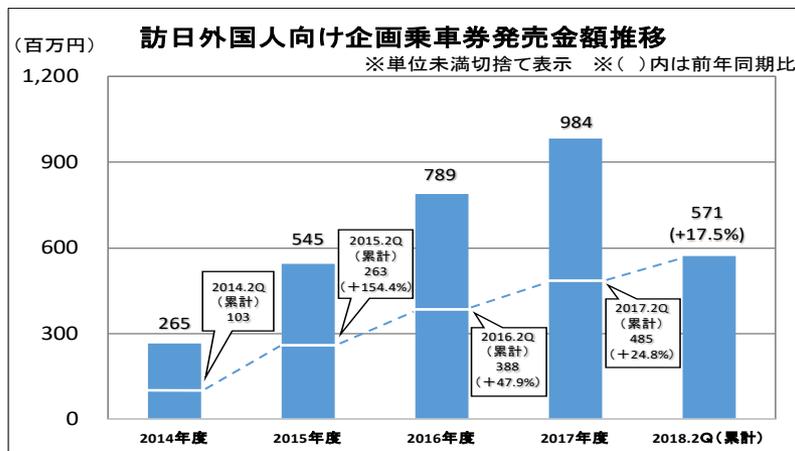
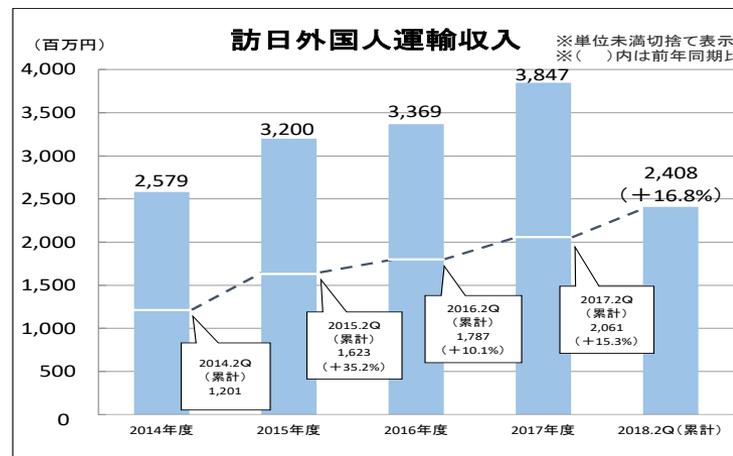
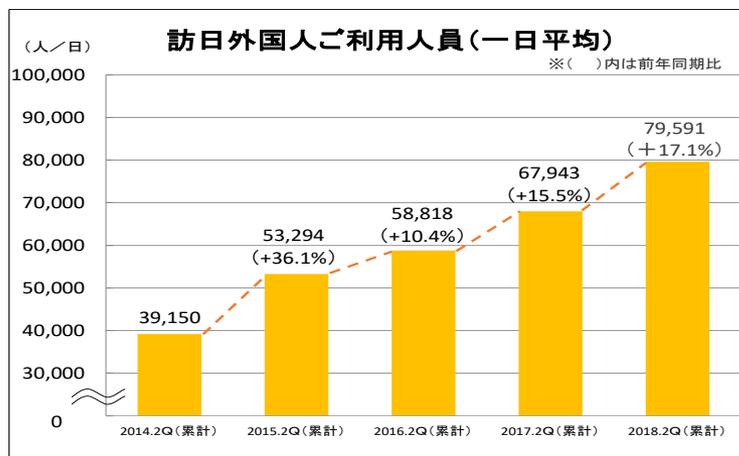
東京地下鉄株式会社



2018年度第2四半期（累計）において、訪日外国人のご利用および訪日外国人向け企画乗車券の発売額が引き続き増加しました。

訪日外国人のご利用状況

- 訪日外国人の運輸成績への影響につきまして、今期のご利用人員は一日平均約8.0万人、前年同期比で約1.2万人、17.1%の増加、旅客運輸収入は今期が24億円、前年同期比で3.4億円、16.8%の増加と推計しました。
- 訪日外国人向け企画乗車券の発売実績は、今期は5.7億円、前年同期比で0.8億円、17.5%増加しました。

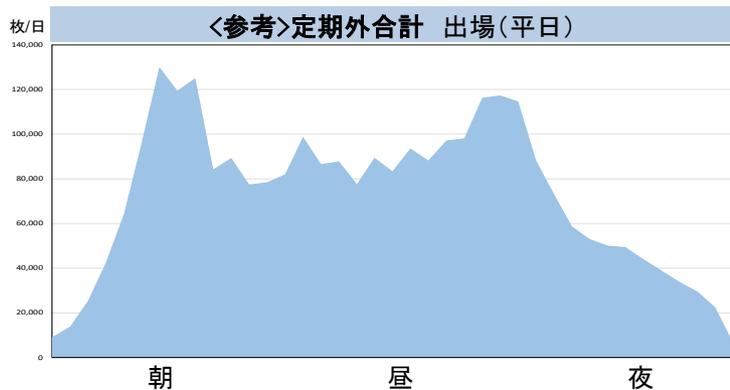
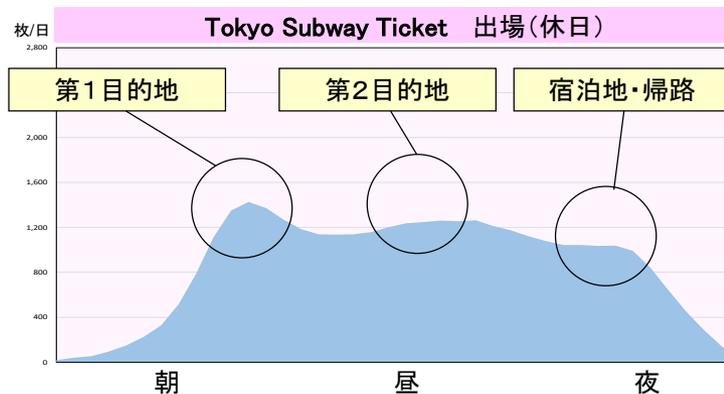
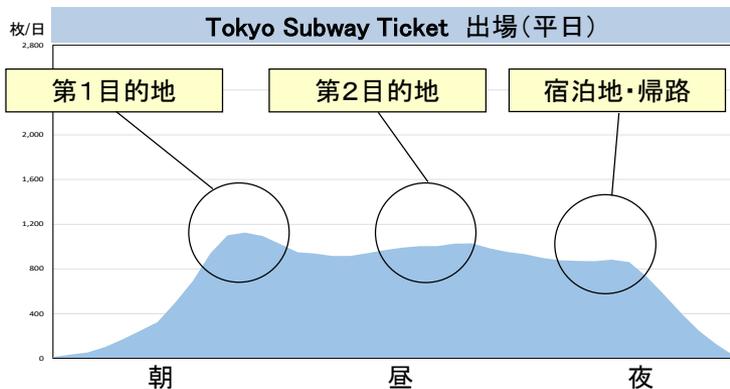


※訪日外国人向け企画乗車券: Tokyo Subway Ticketのうち、海外旅行代理店、羽田空港、成田空港、都内家電量販店、当社旅客案内所・一部定期券うりば等で発売したもの

2018年度第2四半期（累計）におけるTokyo Subway Ticketのご利用状況につきまして、平日休日共に各時間帯で多くのお客様にご利用いただいております。

Tokyo Subway Ticket 改札機データ（時間帯別）

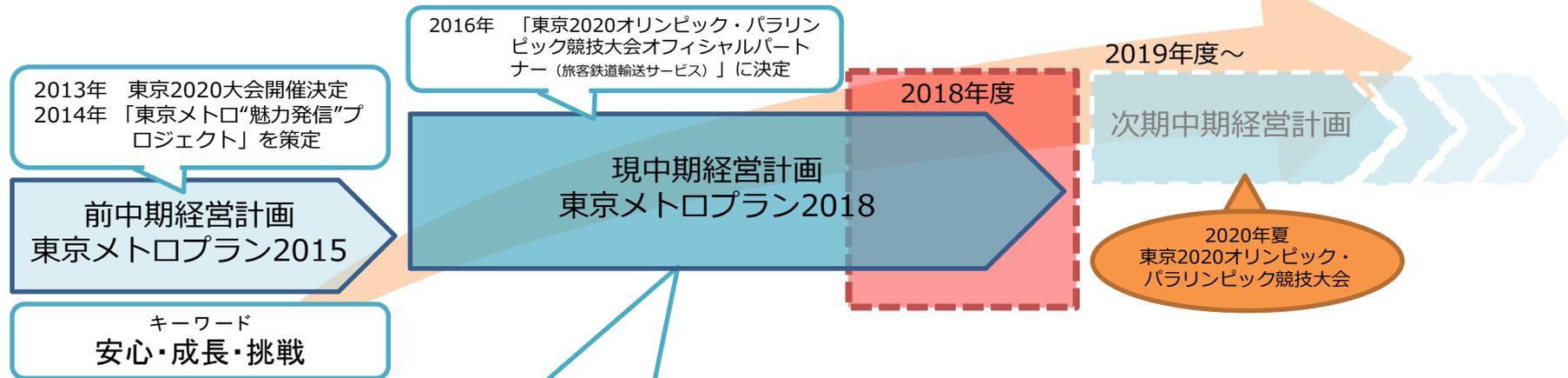
- Tokyo Subway Ticketにつきまして、平日休日ともに各時間帯で多くのお客様にご利用いただいております。平日休日ともに午前中のご利用がピークとなっており、第1目的地（観光スポット等）に到着する時間であると推測しました。
- 平日休日ともに、出場の山が3か所あることから、当社で実施した訪日外国人へのアンケート調査で判明した平均訪問箇所数（約3.2か所）と同様の傾向がみられました。
- 休日は、ほぼ全ての時間帯で平日よりもご利用が多く、訪日外国人旅行者に国内旅行者が加わり増加しているものと推測しました。



<凡例> 2018年度第2四半期(累計)一日平均出場枚数(枚/日)

※朝: 始発~10:00 昼: 10:00~17:00 夜: 17:00~終車

2018年度は、現中期経営計画の最終年度として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先も見据え、各施策を着実に実行することにより、策定に向けて動き出した次期中期経営計画へ弾みをつけていきます。



キーワード ～ 「安心の提供」と「成長への挑戦」 ～

安心の提供

「安心＝安全＋サービス」の考えのもと、「世界トップレベルの安心」を提供する地下鉄を目指し、ハード・ソフト両面での各種施策をこれまで以上に加速させていきます。

成長への挑戦

「安心の提供」を大前提とした上で、新たな価値を生み出す取組みの全てを「成長」と位置づけ、「成長」に向けた取組みを積極的に進めていきます。

経営基盤の強化

「安心の提供」「成長への挑戦」の実現を確かなものとするため、経営基盤の強化を図っていきます。

私たちの決意

たゆみなき
「安全」の追求

お客様視点に立った質の高い
「サービス」の提供

安心 = 安全 + サービス

項目	主な取組み
安心の提供	
自然災害対策	震災対策、大規模浸水対策、大規模停電対策
鉄道の安全・安定運行に向けた取組み	ホームドアの整備、新型車両の導入（丸ノ内線、日比谷線）
輸送サービスの改善	北綾瀬駅のホーム延伸、東西線の輸送改善
バリアフリー設備整備	全駅へのエレベーター1ルート整備、複数ルート整備
銀座線リニューアル	駅改装、渋谷駅移設工事
利便性・快適性向上	トイレ全個室洋式化、案内サインのリニューアル、訪日外国人のお客様向けサービスの拡大、メトロポイントクラブ（メトポ）の導入
東京の地下鉄サービスの一体化	旅行者向け券売機の導入、九段下駅の乗換改善
成長への挑戦	
お客様ニーズへの対応	「Tokyo Subway Ticket」の販路拡大、マーケティングの強化
東京とともに成長	公募型連携プロジェクト、日比谷線虎ノ門新駅（仮称）の整備
関連事業の拡大	不動産事業、流通事業、広告・情報通信事業の積極的な展開
海外鉄道事業の新たな展開	ベトナムにおける都市鉄道整備支援、国際協力・国際交流の推進
新たな事業領域への挑戦	子ども向けロボットプログラミング教室、アクセラレータープログラム
新技術の開発・導入	CBTCシステム、駅構内ナビゲーションサービス
経営基盤の強化	
経営基盤の強化	国際調達の推進、人材育成、環境保全活動、社会貢献

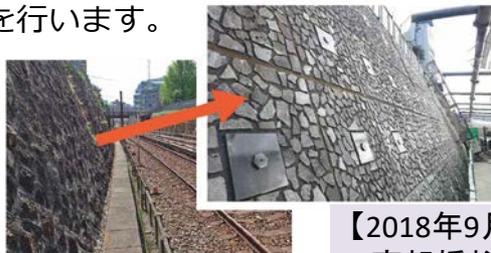


お客様の安全確保を最優先に、震災対策、大規模浸水対策等を推進します。

震災対策

早期運行再開に向けた耐震補強

首都直下型地震等に備え、震災発生時にも早期の運転再開ができるよう、高架橋柱や石積み擁壁の補強を推進しています。また、これらに加えて、地下部のトンネル中柱に対してもさらなる補強を行います。



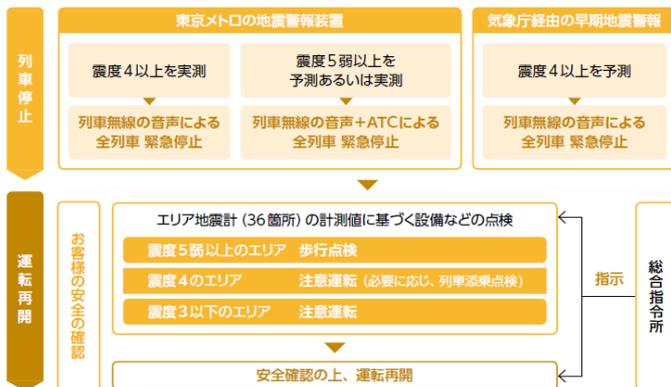
石積み擁壁補強

【2018年9月末時点】

高架橋柱 約99%整備完了
石積み擁壁 約67%整備完了

迅速かつ適切な運転規制

地震発生時には、東京メトロの沿線6箇所に設置した地震計から、総合指令所の情報表示装置に地震警報が表示され、直ちに地震の大きさに応じた運転規制を行います。その後、安全の確認を実施し、速やかに運転を再開します。



大規模浸水対策

自社出入口だけでなく、近隣ビルとの接続出入口を含め、浸水対策が必要な全ての出入口・トンネル等への浸水対策を進めています。

駅出入口の止水板

水の流入を防ぎながら避難のため人が乗り越えることができる止水板。



浸水防止機

道路面の換気口からの浸水を防ぐ浸水防止機。水深6mの水圧にも対応。

海拔表示

お客様に日頃から水害発生時の行動を意識していただくため、駅出入口に海拔を表示。



防水扉

出入口全体を閉鎖できる防水扉を設置。

完全防水型の出入口

周囲を強化ガラスで覆い、前面をスチール扉で閉鎖することで、想定浸水深2m以上に対応。



防水ゲート

トンネルの断面を閉鎖することができる防水ゲートを設置。

お客様への情報提供

災害発生時には、各駅に設置している改札口ディスプレイ(日・英・中・韓)や駅構内一斉放送(日・英)、車両内での緊急放送(日・英)などで、お客様に対して運行情報などの情報提供を行ってまいります。

2018年度上期までに、渋谷駅を除く銀座線全駅でホームドア整備を完了しました。
引き続き、2025年までに、全路線全駅へのホームドア整備の完了を目指します。

ホームドアの整備

各路線ホームドア整備計画

現時点（2018年9月末）
の取組状況

今後の計画

G 銀座線	全駅整備済 渋谷駅※を除く	
M 丸ノ内線	全駅整備済	
H 日比谷線	2020年度整備開始	▶ 2022年度全駅整備完了予定
T 東西線	整備中（2駅整備済）	▶ 2025年度全駅整備完了予定
C 千代田線	整備中	▶ 2019年度全駅整備完了予定
Y 有楽町線	全駅整備済	
Z 半蔵門線	整備中（2駅整備済）	▶ 2023年度全駅整備完了予定
N 南北線	全駅整備済	
F 副都心線	全駅整備済	

【2018年9月末時点】
整備率 59%（106駅/179駅）

【2019年3月末（予定）】
整備率 67%（120駅/179駅）



※渋谷駅については、大規模改良工事に合わせて整備予定

安全性・快適性の向上等を図るため、2019年2月に丸ノ内線に新型車両を導入します。
全駅へのホームドア早期整備に向け、引き続き日比谷線への新型車両の導入を進めます。

新型車両の導入

丸ノ内線

デザイン・コンセプト

色-color-

四季に映える鮮やかな挿し色

形-form-

活力あるTOKYOのカタチ

機能-function-

安心を支える先進の機能



東京メトロとして初めて導入する 機能・設備

- NEW 車両情報管理装置
(TIS:イーサネット方式)
- NEW CBTCシステム対応可※
- NEW テーブル・荷物掛け・
コンセント
- NEW 脱線検知装置

2022年度
全53編成導入完了予定

2019年2月
導入開始予定

日比谷線



23/44編成導入完了
(2018年9月末時点)

2020年度
全44編成導入完了予定

※CBTCシステム（無線式列車制御システム）
先行列車の位置から後続列車が走行可能な位置を算出し、無線を介して後続列車に伝え、後続列車は自ら走行可能な速度を計算し移動することで、列車間隔をさらに短くすることができ、高い遅延回復効果を得ることができます。

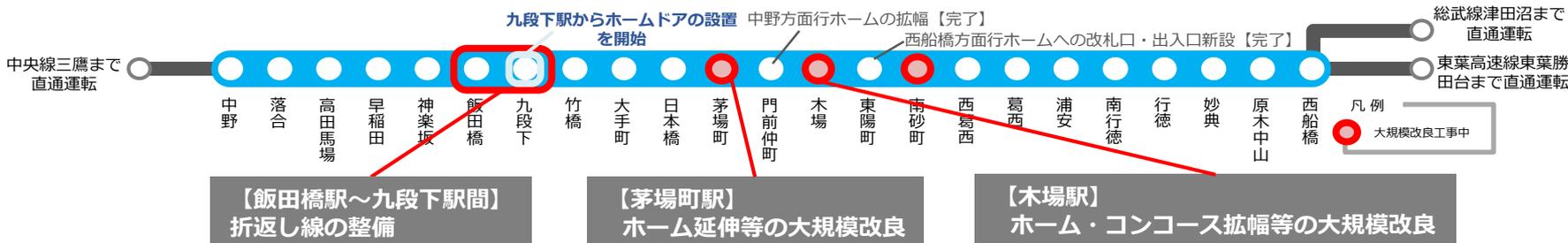
輸送サービスの改善として、東西線は混雑率180%以下を目指し、大規模改良工事や早起きキャンペーン等に引き続き取り組みます。
また、千代田線は北綾瀬駅のホーム延伸の完成を目指します。

東西線の輸送改善

【南砂町駅】線路・ホームの増設等の大規模改良

ホーム1面、線路1線を増設し、2面3線化することで列車の交互発着が可能となり、ホーム上の混雑が緩和され、遅延防止、安全性・利便性の向上を図ります。

■ 新設箇所

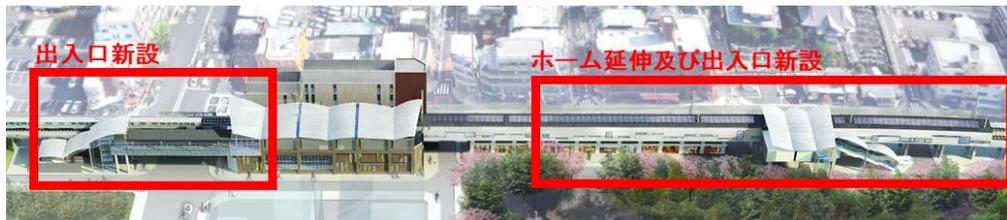


千代田線の輸送改善

北綾瀬駅のホーム延伸

北綾瀬駅のホーム延伸により、北綾瀬駅～代々木上原駅間の10両編成直通運行が可能となります。

■ 新設箇所



▲北綾瀬駅改良後のイメージ

その他の施策

「時差Biz」とも連携し、2017年に通年化した東西線早起きキャンペーン等、ソフト面からも混雑緩和に取り組んでいます。



東西線早起き部
東葉線早起きキャンペーン

●早起きメダルを貯めて、それなくもらえる抽選品(2018.1.20～1.30)は!

●W7チャンスで、旅行券(最大100,000円)や体験チケット(最大30,000円)が当たる!

●さらに、毎月抽選で水戸線ペアチケットなど抽選品もプレゼント!

2018.4.2(木)～2019.3.29(水)

関連事業については、鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした事業展開を図り、さらなる「成長」に向けた取組みを積極的に進めていきます。
また、新たな事業領域への挑戦を通じ、成長に向けた新たな可能性を引き出していきます。

関連事業の拡大

不動産事業

- 2018年10月 メトロクローゼット南千住開業
- 2018年12月 N C Oメトロ神谷町ビル開業（西松建設との共同開発）
- 2019年度 新宿御苑前駅ビル開業（野村不動産との共同開発）
渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期（東棟）開業
（東急電鉄・JR東日本との共同開発）
- 2020年度 六本木駅ビル開業（ヒューリックとの共同開発）



メトロクローゼット南千住



神谷町ビル
完成イメージ

新たな事業領域への挑戦

アクセラレータープログラム

「Tokyo Metro ACCELERATOR 2016 及び 2017」の最終審査を通過したスタートアップ企業とパイロット施策を実施するなど、幅広い外部連携等を通じ、新たな事業領域に積極的に挑戦していきます。

《2018年度パイロット施策》

30分でまなべる！
ビジネスパーソンのための「メトロde朝活」
（ストリートアカデミー株式会社）



メトロ駅構内の商業施設で、通勤中のお客様に気軽な学びを提供

《2018年度業務提携》

都市の魅力を引き出す体験シェアリングサービス
「AND STORY」
（株式会社Story&Co.）



東京メトロ沿線の街の魅力を語る「旅するトーク」の開催や、体験シェアリングサイトの運営により、東京をより魅力的な街にしていく

モバイル決済Alipay

「Tokyo Subway Ticket」及び「Greater Tokyo Pass」のAlipayによる発売を開始する等、決済手段の多様化を図ります。



2018年4月から上野駅旅客案内所で発売開始
他の旅客案内所への導入に向け調整中

※Tokyo Subway Ticket
東京メトロ全線及び都営地下鉄全線乗り降り自由な乗車券

24時間券	大人800円	小児400円
48時間券	大人1200円	小児600円
72時間券	大人1500円	小児750円

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先も見据え、 2018年度の設備投資額は、1,880億円を計画しています。

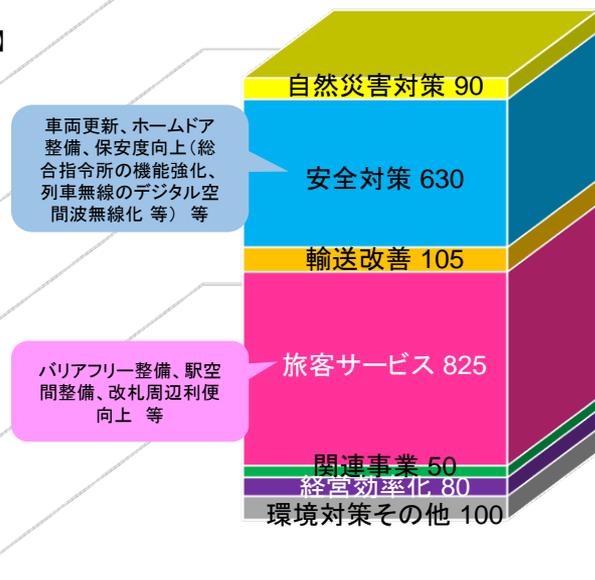
設備投資予算

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先も見据えた各種施策が最盛期を迎える2018年度は、過去最高の規模となる1,880億円の設備投資を計画しています。
- 2018年度第2四半期においては、安全対策や旅客サービスを中心に累計666億円の設備投資を実施しました。

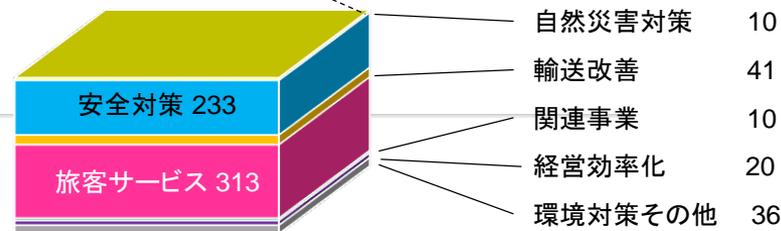
※億円単位切捨て表示

2018年度予算
1,880億円

【単位：億円】



2018年度
第2四半期累計実績 666億円



【参考】年度別設備投資額推移

